

情報教育の実践

守谷市立御所ヶ丘中学校

1 はじめに

守谷市の小中学校においては、ICT 機器が先進的に導入され、ICT を活用するための環境は充実している。このような状況の中で、本校の学区においては、インクルーシブ教育システム構築にむけて、ユニバーサルデザインを取り入れた授業研究が行われている。この一部として、ICT 機器を活用した視覚的・聴覚的な授業が推進されている。一方で、生徒のネット環境に目を向けると、スマートフォン、ネット通信可能な携帯ゲーム機の普及にとともに、9 割以上の生徒が自宅でインターネットを利用できるような現状がある。また、5 割以上の生徒はスマートフォンを所持しており、LINE などの SNS を利用している。これらによるトラブルは、後を絶たず、増加の一途をたどっている。これらの状況を踏まえ、本校での実践事例を紹介する。

2 実践

(1) ユニバーサルデザインの視点から ICT の活用

数学科では、電子教科書を用いた授業が行われている。これにより、教師からの「何ページを開けましょう」などの指示に対して、言葉だけでなく視覚的にも指示を出すことができ、全員が授業へ参加できる。関数、図形の分野では、Graps を用いて、視覚的に理解を促している。例えば、1 次関数の中で、 $y=ax+b$ の a が変化するとグラフの何が変化するかという課題を考える。従来であれば、いくつかのグラフを実際に描いて、傾きが変化することに生徒が気づいたところで、まとめを行っていた。しかし、本当に傾きは変化していくのかという疑問をもつ生徒もいる。ここで、 a を 0.01 刻みで変化させ、それに伴うグラフの変化をリアルタイムで見せることで、グラフの傾きと a の関係が視覚的にも理解される。



(2) モラル教育

本校では、道徳および技術の授業の中で、モラル教育として、ネット社会の歩き方などの動画を活用して、生徒に考えさせる授業を実践している。また、より具体的な事例を取り上げることで、生徒たちにネット社会の危険性について、伝えるようにしている。さらに、各学期末の集会で生徒指導主事よりネットの危険性等についての話、外部の専門家を招いての講習会を行っている。



3 考察

授業については、見通しをもてるようになったこと、視覚的に理解できるようになったことから、授業への関心意欲が高まってきている。保護者・生徒への学校評価アンケートにおいて、「教師は分かりやすい授業につとめている」という項目に対して、8 割以上の生徒がそう思うと答えている。さらに、学力診断テストの結果などからも、ほとんどの教科で県平均を上回っている。

モラル教育では、より具合的な事例の取り上げにより、生徒の危機意識が高まったことや保護者への啓発活動も行っていることから、家庭における危機意識も高まってきている。しかし、依然としてネットトラブルがあることも事実である。

4 今後の課題

今後の課題としては、ICT の活用に差が見られることがあげられる。そこで、全職員が ICT の活用について共通の技能をもてるように、職員間の研修を進めることが必要であると考えられる。また、モラル教育では保護者への啓蒙がまだ不十分であると考えられる。そのことを踏まえて、保護者対象の講演会等を行っていきたいと考える。